

環境白書

【平成24年度報告】

沖縄県

環境白書の発行にあたって

沖縄県は、亜熱帯海洋性気候の下、美しいサンゴ礁が発達した青い海と多様な野生生物が生息・生育する緑豊かな島々から構成されております。

本年の3月5日（サンゴの日）には、慶良間諸島が国内で31番目の国立公園に指定されました。これは「ケラマブルー」と称される透明度が高い海に多様なサンゴが生息し、ザトウクジラの繁殖海域であることなど、多様な生態系を有することが高く評価されたものであります。

このような、かけがえのない豊かな自然環境を守り育て、将来の世代に引き継いでいくため、第2次沖縄県環境基本計画（平成25年4月策定）に掲げる「循環型の社会づくり」、「人と自然の共生」、「環境保全活動への積極的な参加」、「地球環境の保全」、「環境と経済が調和する社会づくり」の達成に向けた各種施策に取り組んでおります。

沖縄県においては、依然として、赤土等の流出による河川や海域への影響、産業廃棄物管理型最終処分場の残余容量のひっ迫、外来生物による生態系の攪乱、米軍航空機騒音、温室効果ガスの排出量増大などが課題となっております。

なかでも、喫緊の課題として、米軍返還予定地等における環境浄化の徹底や、米軍施設に起因する環境汚染現場への迅速な立入調査の実施などが求められており、沖縄県では、平成26年度に基地環境特別対策室を設置し、新たな環境配慮の仕組みづくりに取り組むこととしております。

幅広い環境問題に適切に対応していくためには、行政のみでなく、県民、事業者、観光客等の各主体が沖縄県の環境の現状を把握し、環境へ配慮した取組が行われることが重要です。平成24年度における沖縄県の環境の現状と対策をまとめた本書が、皆様の環境への関心と理解を深め、環境保全活動の取組に役立てていただければ幸いです。

平成26年3月

沖縄県知事 仲井眞 弘多